

# 自律航行技術の社会実装による 旅客輸送のDX化プロジェクト

採択事業者名

株式会社エイトノット

コンソーシアム構成員

株式会社エイトノット | 株式会社わか



## 事業概要

### 目的

船舶関連事業を持続可能にするための小型船舶向け自律航行技術の実装実証を行なう。弊社が保有する自律航行システム搭載した水上タクシーなどの旅客船向けに利用した場合のエコノミクス視点や安全性の目線で、各産業が持続可能なものになるかを検証する。検証を通じて、将来的な離島地域の自律航行オンデマンド水上タクシーによる夜間運航・離島地域への災害時の物資輸送を目指す。

### 課題

これまで、株式会社わかかの保有する船舶にはセンサー等が設置されておらず、かつ宿泊施設のスタッフが操船を兼務していたため、日没以降の航行に不安があった。そのため、顧客から要望のある「サンセットクルーズ」などの高単価ツアーが企画できない状態であった。



### 解決策

株式会社わかかの保有する船舶に、当社開発の「エイトノット AI CAPTAIN」を搭載することで、夜間および操船に不慣れなスタッフが運航にも安全に航行を可能とする。日没後の運航も可能となるため、システム導入後にサンセットクルーズのツアーを開始。



### 取り組み内容

- 株式会社わかかの保有する船舶「WAKKA」に「エイトノット AI CAPTAIN」の実装。  
(実装時には船舶が利用できなくなるため、代船をエイトノットから提供)
- システム導入完了後に、株式会社わかかが運営する宿泊施設「WAKKA」にて、サンセットクルーズのサービス提供開始



### 検証項目

- サンセットクルーズ実施による売上の向上
- 愛媛県内事業者からの「エイトノット AI CAPTAIN」へのフィードバック獲得

### 取得データ

- サンセットクルーズの予約件数・売上金額
- 勉強会での事業者からのヒアリング・アンケート

### データ活用による考察・示唆

・実装事業者の営業利用上のニーズの確認ができた。特に現状の自律航行システムでは、自律航行可能な船速に制限があるが、事業者が営業利用する上では燃費、船員の拘束時間の観点で課題となることが確認できた。

・アフターサポートについて、コールセンター対応、操作マニュアル、メンテナンス体制などのニーズを確認できた。

## 成果と今後

### 成果(含む想定)

実装後のサンセットクルーズでは一定の集客ができたことで、旅客船事業者にシステムを導入した際の売上高向上というコストメリットが発生することが確認できた。

		実装前	実装後(～今年度)	今後3年
定量面	重要指標	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間が短く、かつ閑散期での実施であったことを加味すると、繁忙期での集客も見込み事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このほか、他の離島へのアイランドホッピングや瀬戸内全体をカバーする業態を形成することで、更なる売上の向上が期待できる。</li> </ul>
	定性面	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンセットクルーズは高度な操船技術が必要とするため、対応できる操船者が社長のみと限られてしまっていることが課題で実施を控えていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自律航行のアシストにより求められる操船技術の基準が下がり、社長以外のスタッフでもサンセットクルーズが運航できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンセットクルーズ以外の航路を増やし、瀬戸内海の島々を巡るアイランドトリップの業態を形成する。</li> </ul>

### 次年度以降の実装計画/見立て

次年度は、本年度と異なる検証項目、または異なるユースケースでの実装を目標とする。

①異なる検証項目：明確な人件費の削減を目標とし、システムを導入した際のコストメリットが事業者にとってより明確になるよう検証を行う。

②異なるユースケース：タグボート、または通勤船等への導入。これまで実施してきた船舶と大きさが大きく異なるため、船舶のサイズや用途(物流)に適用できるシステムの技術実証を行なう。